

ぶらっとサロン通信 令和2年7月号



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、3月10日から自粛し**現在休局中**です。

今号でも、前号に続き椿の語源について、海石榴『ザクロとヤブツバキ』についてご案内します。(サカタ通信2017年/小杉 波留夫から引用しました)

石榴(ザクロ) ↓



↑ザクロのような実海石榴(ヤブツバキ)

ザクロを漢字では、**石榴**と書きます。昔のペルシャ付近を安石と中国ではいいました。この地域から来た、こぶ状の実をつける植物を**石榴**と呼んだのです。

一方で、古い時代に**海石榴**と呼ばれた植物があります。その実はザクロに似ています。**海石榴**とは、海を渡ってきたザクロのような実のことです。それは、何なのでしょう。大陸で**海石榴**と呼ばれた植物は、ヤブツバキ *Camellia japonica* (カメリア ジャポニカ) ツバキ科ツバキ属のことです。ヤブツバキは、朝鮮半島や中国の一部にも自生するのですが、日本がこの植物の分布の中心で海岸林に多く自生し、資源量として豊富なのです。隋、唐、渤海(ぼっかい) 国の時代、日本は、遣隋、遣唐使等を送り、大陸の文化を吸収しました。そのとき、絹などと一緒に朝貢品としてもツバキ油を贈ったのです。

ヤブツバキの実のタネを搾るとツバキ油が採れます。油が貴重品だった時代に、この油は**照明の燃料、料理、美容に使い、不老不死の薬とも考えられていた節があります**。当時の大陸において、ツバキ油は、日本の使節団がもたらす宝物だったのでした。**海石榴**。それは、**ヤブツバキ *Camellia japonica* の古名**です。このヤブツバキの実は、**東アジアでは日本の特産品**として知られました。

中国南方の辺境では、いろいろな油茶と呼ばれるツバキ属のタネから油を採っていました。しかし、長安、洛陽の都から距離的にも遠く、海を隔てた日本より往来の難しい南蛮と呼ばれる地域だったので。歴史上、中国の王朝に南方の油茶が知られる前に、日本からの朝貢品であるヤブツバキの油が彼らの知見に入り、**海石榴**といわれたと考えられています。



シーボルト(1796-1866)は、その著書、『日本植物誌』の中で、ヤブツバキを冷温室の最大の宝物「冬のバラ」と称賛しています。

残念ながら現在、海石榴と呼ばれた植物が本当に椿であったのかは国際的には認められていません。

また、ツバキ科の植物ほど人類にとって高い重要性を獲得した植物は他にないと述べています。確かにチャ(ツバキ科ツバキ属)について考えた場合、あながち間違いとはいえない見解だと思えます。

ツバキ(*Camellia*)の属名は、現在のチェコ生まれのイエズス会宣教師で、フィリピンの植物情報をヨーロッパにもたらした Georg Joseph Kamel (ゲオルク ヨーゼフ カメル) にちなみリンネが命名しました。Kamelの収集品に *Camellia* 属のタネが含まれていたのです。

※以上椿の語源は不確かですが、煬帝の海石榴の詩は、倭国から献上され、裴世清が持ち帰ったツバキを愛でたものであると**想像するととても愉快**です。